

オブデス フリースタイル規定書

ミュージカルフリースタイル

Musical Free Style (略号:MF)

良くトレーニングされた犬のステップやムーブと、ハンドラーの演技との調和を音楽にのせてより美しく芸術的に表現する。演技する犬にとって、目に見える様な肉体的な痛みや怪我の原因とならない限りにおいて、どのような動きを使う事が出来る。

競技において総合点が同じ場合は、芸術点の高い方が勝者となる。

ヒールワーク トゥ ミュージック Heelwork to Music (略号:HTM)

おもにハンドラーと犬の正確なポジションやムーブを、調和のとれた美しいステップラインで技術的に表現する。

競技において総合点が同じ場合は、技術点の高い方が勝者となる。

ヒールワーク トゥ ミュージックの概要

- 演技開始後の 10 秒間に、犬が維持したポジションを、その組のヒールワークポジションとして定義する。
- 犬がその場でのスピンの必要とする空間を最高の距離として、全ての競技をこなす。(演技空間)
- ジャンプは禁止
- 演技空間内である限り、後ろ脚で立っての演技は許容されるが、後ろ足でのジャンプは禁止である。
- ハンドラーの足の間を犬がくぐる動きに関しては、次のムーブに移行する為に必要かつ有効であると判断出来る時のみでの使用を許可し、それ以外の利用は減点の対象とし、使用回数は制限しない。

「OPDESのHTMの解釈補足」

HTM の解釈については、欧米間に大きな違いがあります。英国では、8つのポジションをヒールワークポジションと定義して、このポジションで行われる作業の割合が規定されていて採点に影響します。ただし、ウィーブや遠隔などの他の作業も採用されます。WCF0 では、ヒールワークを主に脚側での演技空間で定義し、ウィーブや遠隔での作業は禁止です。

OPDES では…













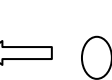
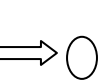
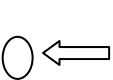
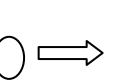
ヒールワーク作業を 16 ポジション(下記)と限定し、それぞれのポジションでの正確な5歩以上の4足連続歩行をヒールワーク作業と定義し、それが全体の(50%以上)である事を基本とする。

(その他のムーブやトリックの採用は現行通りであるが、規定に採用されていない部分は、WCF0 の規定に準じて行う。)

OPDES の HTM の解釈は、WCF0 の競技に参加する方の、同協会ルール of 解釈への混乱を避ける為の配慮であり、正確で美しいポジションの連続維持は FS 技術向上を図る為の大前提と解釈する所以です。

※HTM のポジションの解釈を下記の通り、16 ポジションと限定します。

← (犬) ○ (ハンドラー)

※ HTM におけるポジションの必須採用条件について

※ビギナークラス (2 ポジション以上) ・ノービスクラス(3 ポジション以上)

インターメディエイトクラス(4 ポジション以上) ・アドバンスクラス(5 ポジション以上)

各部門の分割 Definition of Classes (categories)

課 目	ミュージカルフリースタイル (略号:MF)	ヒールトゥミュージック (略号:HTM)	備考
クラス	ジュニア	ジュニア	TM:技術点・AI:芸術点
	スターター	スターター	正式科目では無く、競技会によっては採用しない場合がある
	ビギナー	ビギナー	ビギナーA ; ビギナーB (A:ハンドラーも犬も初めての出場、B:犬のみ初出場)
	ノービス	ノービス	ビギナーで TM/AI 共に 70%以上の得点を 2 度達成したペア及びチーム
	インターメディエイト	インターメディエイト	ノービスで TM/AI 共に 80%以上の得点を 3 度達成したペア及びチーム
	アドバンス	アドバンス	インターメディエイトで TM/AI 共に 90%以上の得点を 3 度達成したペア及びチーム
各階梯には、シングル・ブレース・ペアー・チーム部門がある。(H=ハンドラー;D=犬) ※ シングル(S) : 1(H) + 1(D) ※ ブレイス(BR) : 1(H) + 2(D) ※ ペアー(P) : 2(H) + 2(D) ※ チーム(T) : 3 名以上のハンドラーと犬によるチーム			
略号 ジュニア(Juniors) : J スターター(Starter) : ST ビギナー(Beginners) : B ノービス(Novice) : N インターメディエイト(Intermediate) : I アドバンス(Advanced) : A			

ポイント獲得後の昇級について

※ポイント獲得後、昇級の基準に達成したチームは、その競技会より 6 カ月以内の競技会においては、現行のクラスにおいての出場を認めるが、その後の競技会においては必ず昇級するものとする。

リングサイズ (最大演技空間)

9m × 18mを標準サイズとし8m × 13m以上を確保できる事が望ましい。

有効演技利用スペースは大型犬で 75%・小型犬で 50%以上とする。

国内において規定のリングが設定できない場合は、8m × 10mを最小リングサイズとする。

リングは演技空間から四方に 1mの距離を置いて、柵状のもので分離されなければならない。

やむを得ず、最小リンクスペースを設定した場合、有効演技利用スペースを、標準サイズの大型犬で 75%・小型犬で 50%以上を目安にルーティン構成を努力するものとする。

ルーティンタイム

Juniors(J)	1分30秒～2分15秒	
Beginners(B)	2分00秒～3分00秒	
Novice(N)	2分00秒～3分00秒	
Intermediate(I)	2分00秒～3分00秒	
Advanced(A)	2分15秒～3分15秒	
Sassy Seniors(SS)	1分30秒～2分15秒	犬が9歳以上、又は、ハンドラーが65歳以上

- タイムは犬かハンドラーが動き始めた時点から、双方の動きが終わった時点までを計測し、前後に10秒の誤差は許されるが、大幅な超過タイムは減点または失格となる。
- スタータークラスのトリートの提示については、ライブ・ビデオ双方共指でつまんで提示せず、手の平に乗せた状態で明確に提示する事。
- 同一ルーティンでの複数回の出場を認めるが、1年以上にわたっての同一ルーティンでの出場は奨励しない。

出場資格

全ての犬種の6か月齢以上の犬に出場の機会が与えられるが、発情中の犬は原則として出場できない。(ただし、競技主催者の判断で、全ての演技が終了した後に審査する事がある。その場合も審査直前まで、本リンク・控えリンク内での練習その他は許可されない。)

Sassy Seniors クラスのハンドラーと犬は他の科目に出場する事も出来る。

国内審査基準

技術点(10点)と芸術点(10点)の合計20点満点。

Technical Merit 技術点(10点)

難易度 (Difficulty)	3
構成要素 (Content)	3
完成度 (Execution)	2
滑らかさ (Flow)	2

Artistic Impression 芸術点(10点)

ルーティーンの概念 (Concept)	3
動性 (Dynamism)	3
デザイン (Design)	2
リズム (Rhythm)	2

減点

- ※ コスチューム/プロップの誤使用 (Improper use of Costume/Prop)
- ※ 吠え (Barking)
- ※ 身体的な強制 (Physical Manipulation)
- ※ ルーティンタイム (Routine Time)
- ※ 演技空間外に出る (HTM のみ)
- ※ (その他)演技中の持来行為は、演技構成上必要と認められるものに関してのみ許される。
有効とみなされない場合は、減点の対象となる。
- ※ 公式競技におけるルーティン内の流れの中で、必要と思われないような犬との接触 (ハンドタッチ・小道具などによる) は、故意的接触誘導とみなされ減点の対象となる。

失格

- ※ リングからの逸走
(現行規定では、スター・ビギナー・ノービスにおいてのみ、原則終わりまでの演技を認める)
- ※ ただちにリングスペースから撤退を要求する行動
訓練用具(食べ物、おもちゃ、ターゲットスティック、グリップカーなど、)の使用
リング内での排泄 チョーク/スパイクカラーの使用(会場施設内での使用禁止)
- ※ 禁止事項違反者

禁止事項など補則

- ※ ハルター使用での演技は禁止。
- ※ チョークカラーやスパイクカラー装着での会場への立ち入り禁止。
- ※ フードや遊具などトレーニング用具や演技と関係ない全ての用具の使用は禁止。
- ※ 発光する物の装着
- ※ 犬のカラー・リング・ネイルカラーなどの禁止。
- ※ 犬に苦痛を与えたり、観客に不快感を与えるような用具や発生の禁止。
- ※ 演技の表現に必要な最小限のネックカラーやバックルカラー、アンクルバンド以外の犬への装飾品については、主催者においてその都度判断し禁止する場合がある。
- ※主審査員は審査(会場)における諸問題、および、規定されていない部分などに全ての権限を持ち審査にあたり、コンペが参加者参加犬観覧者にとって好ましいものとなるよう努力する。
- ※ 装飾、小道具に生き物を使う事は禁止。
- ※ ハーフチョークカラーやマーティンゲルカラー(プレミアカラー)は、会場内立ち入り禁止用具から除外する。

規定の補足

規定されていない事項について問題が生じた場合、ジャッジおよび競技会事務局の判断で決定します。

2010 年 10 月 1 日より